

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	地域ビジネス特講Ⅴ		
担当者(Instructors)	阿比留 大吉	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
最新技術の進歩は目まぐるしく、5年後の社会がどのように変化しているのか想像することは困難に思える。本講ではIT(インターネットテクノロジー)をテーマに数年後の社会を劇的に変え得る技術とその影響について紹介する。事実と傾向を読み解き、変わり行く社会の形を議論する。本講ではITに関わる実例を見て学ぶことを講義の目的とする。

■ 授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	本講義は講義形式で行う。講義の最初にレポートを提出してもらい、講義の前半でそのレポートに対する質疑や内容の再確認、議論を行う。そして新しいテーマや論点の紹介を行う。講義内でその内容をまとめるレポートを書く時間を設け、講義終了後に講義のまとめのレポートを提出していただく。

■ 各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	ITとは何か。本講義の進め方と評価方法について	☐
第2回	サービスロボット	サービスロボットの出現による関連産業の変化について考察する。	☐
第3回	ドローン	ドローンによる配送・測量の変化について考察する。	☐
第4回	ヘッドマウントディスプレイ・VR, AR	スマホの次と言われるヘッドマウントディスプレイの概要ともたらず影響、VR, ARについて考察する。	☐
第5回	サブスクリプションとスマホ・5G通信	サブスクリプションとスマホの関係について。5G社会を見据えた新しいビジネスチャンスについて考察する。	☐
第6回	IoT・ビッグデータ	IoTによる関連産業の最適化について、ビッグデータの蓄積による社会の変化について考察する。	☐
第7回	ブロックチェーンと仮想通貨	ブロックチェーンの概要、それを基礎技術とした仮想通貨やフードトレーサビリティなどの概念、その影響について考察する。	☐
第8回	中間まとめ	これまでの講義を通して紹介した内容についてまとめ、議論を行う。	☐
第9回	自動運転技術	自動運転によるモビリティの変化を車のデザインから交通体系を一貫して考察する。	☐
第10回	3Dプリンター・デジタルファブリケーション	3Dプリンターによる低コスト建設やデジタルファブリケーションによる大量生産への代替について考察する。	☐
第11回	生体認証鍵	顔認証が実用フェーズに入ったことから見られる鍵の近未来や、現在の生体認証技術について考察する。	☐
第12回	AI(人工知能)チップ	AIチップの概要について知り、その普及によって変化する産業や生活について考察する。	☐
第13回	シェアリングエコノミー	AirB&B, Uberをはじめとしたシェアリングエコノミーの潮流について考察する。	☐
第14回	キャッシュレス社会	キャッシュレス社会とは何か。その潮流と社会への影響について考察する。	☐
第15回	まとめ	これまでの講義を通して紹介した内容についてまとめ、議論・総括を行う。	☐

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)
配布資料をもとに毎週2時間程度の予習、2時間程度の復習を行うことを推奨する。(合計4時間)

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎週講義内容の予習レポートを提出していただく。レポート提出の翌週には予習レポートに基づいて質疑に対して個別での応答、そして共通した疑問があれば全体でフィードバックを行う。議論になり得る論点があれば議論を行い、講義内容の理解を深める。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◆ 2018地域ビジネスDP2	ITに関する一般的な知見を有し、自分なりの意見を表現することができる。
	◇ 2018地域ビジネスDP3	ITの概要と主要なトピックについて理解している。 ITが社会に及ぼす影響について理解している。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			60%	40%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

1. 平常評価について、授業中に作成するレポートの提出及びそれに基づくディスカッションを60%で評価する。
2. その他について、中間まとめ、まとめの回で行うレポートの内容を40%で評価する。
3. 1,2の総合評価で100%とする。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	配布資料	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	各回のテーマに即して適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		